



12月14日、富山大学杉谷キャンパスにおいて、県内の中学生（1～3年生）を招き「第5回 将来を見つめる座談会」が開催されました。

この日は、**富山市、黒部市、射水市、高岡市の中学校10校** **30**名の生徒、保護者約20名が参加しました。

開会あたり、酒井理事・副学長から、本日のプログラムが紹介され、齋藤学長との語らい、本学若手教員及び大学生とのパネルディスカッションを通して、医療やくすりの理解を深め、将来の進路について考える機会にしてほしいと挨拶がありました。

この後、座談会は、「学長講話・学長と語り合おう」、若手教員・学生との「パネルディスカッション」と進められ、終始、活発な対話が繰り広げられました。

### プログラム

12：30～	受付
13：00～	開会挨拶 酒井理事・副学長
13：05～	第1部 齋藤学長講話
13：35～	学長と語り合おう
14：20～	第2部 パネルディスカッション 医療とくすり、その他なんでも聞いてみようタイム
16：30	閉会
終了後	記念撮影



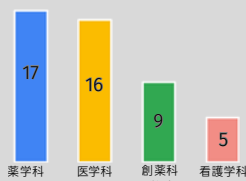
### 参加者アンケート | 回答者26人

Q. このイベントを何でお知りになりましたか



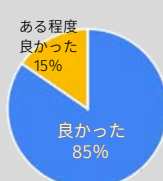
● 中学校からの紹介 (22人)  
● 知人からの紹介 (4人)  
● 富大ホームページ (0人)  
● YouTubeショート動画 (0人)

Q. 現時点での興味のある学部・学科（複数回答）



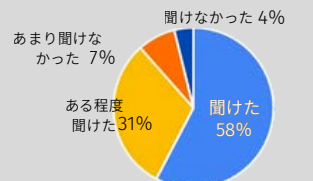
● 薬学科 (17人)  
● 医学科 (16人)  
● 創薬科学科 (9人)  
● 看護学科 (5人)

Q. 参加して良かったですか



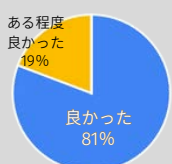
● 良かった (22人)  
● ある程度良かった (4人)  
● あまり良くなかった (0人)  
● 良くなかった (0人)

Q. 自分の知りたいことを聞くことができましたか



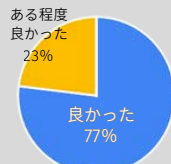
● 聞けた (19人)  
● ある程度聞けた (7人)  
● あまり聞けなかった (0人)  
● 聞けなかった (1人)

Q. 「学長講話」、「学長と語り合おう」について



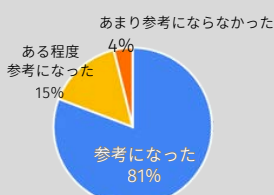
● 良かった (21人)  
● ある程度良かった (5人)  
● あまり良くなかった (0人)  
● 良くなかった (0人)

Q. 「医療とくすり、その他なんでも聞いてみよう」タイムについて



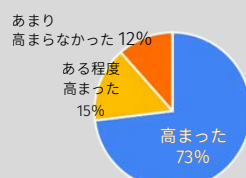
● 良かった (20人)  
● ある程度良かった (6人)  
● あまり良くなかった (0人)  
● 良くなかった (0人)

Q. 自分の将来を見つめる上で参考になりましたか



● 参考になった (21人)  
● ある程度参考になった (4人)  
● あまり参考にならなかった (1人)  
● 参考にならなかった (0人)

Q. 本日のイベントに参加して、将来、医・薬・看護系のお仕事に就きたいという気持ちが高まりましたか



● 高まった (19人)  
● ある程度高まった (4人)  
● あまり高まらなかった (3人)  
● 高まらなかった (0人)



# ／ 医師、看護師、薬剤師、研究者になりたい！ ／

## 第1部 | 学長講話 学長と語り合おう

齋藤学長は、今の医療は、医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、事務職員までが協力し合って一人の患者を治療する「チーム医療」や、患者さんと医療者が対等な立場で一緒に治療方法を決めていく「シェアード・ディシジョンメイキング」などについて説明。このような時代の中、一段と医療者のコミュニケーション力が求められているとし、中学生活の中で友達との会話を通して物事を決めていくという力を磨くことの大切さが強調されました。

また、医療の世界は日々進歩しており、自分が習得した新たな知識を周りの人にも教え合う世界であるとし、「百引く一はゼロ」と言われるように、一人でもレベルの低い人がいると、その病院の価値もそのレベルと見なされるため、生涯学習と相互に教え合うことが大切であると訴えられました。

そして、医師、看護師、保健師、助産師、薬剤師、研究者になるための大学での学び方やそれぞれの仕事内容・魅力について語り、“人の役に立ちたい”、“科学が好き”、“人とかわかる仕事がしたい”、“安定した職業に就きたい”、“好奇心が旺盛だ”という人は、医療職に適任だと思うので、将来の職業として考えるきっかけとして欲しいと期待が寄せられました。



## 第2部 | パネルディスカッション

ファシリテーター：酒井理事・副学長

パネラー：木戸敏喜（附属病院第一内科診療助手）、布目容子（看護学科助教）、大石雄基（薬学部講師）、条美智子（和漢医薬学総合研究所助教）、片山さくら（附属病院薬剤部薬剤師）及び医薬系学生の山田羽純（医学科3年）、菊崎優希（看護学科3年）、米田隼輔（薬学科5年）、佐藤綾香（総合薬学研究科博士後期2年）



ファシリテーターからの呼びかけに呼応し、参加者は、「手のひら型質問プレート」を元気いっぱいに掲げ、「医療職の魅力」、「大学生活」など、次々と質問が繰り出され、パネラーからのリアルな体験に基づく話やアドバイスに熱心に聞き入っていました。



また、富山県厚生部くすり振興課の宮島重憲主幹、浅井修平主幹、富山大学研究推進部社会貢献課のスタッフより挨拶がありました。





- 学長の話聞き、医療は一人の力では成り立たないことを改めて実感できました。
- 今回の座談会を通して、自分自身の学習や物事に対しての考え方を考えることができました。「今の学習が面倒くさくても、いつか役立つ時が来る」とのお話に、もっと積極的に物事に取り組むべきだと感じました。
- 1人の患者さんに10人の医療従事者が関わっているということを知って驚きました。
- 医療に関わることに魅力を感じました。
- 齋藤学長のチーム医療のお話や、他の先生方がお話しくださったことから医療は沢山の人が関わることで最高の医療が届けられていることを学ぶことができました。私はもともと医師という命を救う仕事に強い憧れや興味がありましたが、座談会に参加させていただいたことで更に更に強い憧れを持つことができました。この経験がこれから勉強に励んでいくときに力になると思います。富山大学の素敵な先生方のような沢山の人の人を助け、幸せを届けられる医療人になります。私たち中学生の為に素敵な機会を設けていただき本当にありがとうございました！！
- 医療に携わる人たちには、普段からお世話になるお医者さんや看護師さんだけでなく、他にも薬を作ったり、薬を研究しておられる人などがいて、たくさんの人が連携して成り立っているのだと分かりました。
- 富山大学ならではの良さや特色、医療のチームワーク、患者さんへの精神的サポートなど、今まで知らなかったことを知れてとても良かったです。
- 現役の学生さんから、どのように学生生活を過ごしておられるのか聞かせていただき、とても良かったです。
- 医療技術以外にも、コミュニケーション力や体力、英語力が大事だと初めて知って驚きました。友達と話したり英検を取ったりしたいです。医療職の魅力には、人の命を守ることに加え、精神的にも支えていくこともあると知りました。富山大学は、日本で唯一の伝統医学、地域枠入試、安い授業料、大規模の総合大学であることを知り、将来富山大学に入学したいと感じました。
- 医療の進歩や大学での研究の楽しさなどいろいろ知ることができて楽しかったです。
- 今までぼんやりとしか解っていなかった医療の仕事の内容や、大学について詳しく解って嬉しかったです。そして、現代の医療では患者さんに寄り添い、いろいろな人が関わっているというお話と、研究によって全く新しい薬が開発されるというお話が印象的でした。
- 丁寧に質問に回答してくださってありがとうございました。
- 和漢医薬学総合研究所がすごいことを知ってビックリしました。中1のとき「くすりの富山」について勉強しました。富山大学がこんなにすごいとは知らなかったの、近くにある大学で良かったと思いました。両親が薬剤師で姉も薬学部に通っています。ぼくも同じ薬学の道に進もうかなと思っています。目指す大学ができました。
- 医師の日々の生活、仕事の大変さや、そこに至るまでの経緯がよく解りました。
- 今まで疑問に思っていたことや、分からなかったことが分かりました。
- 学長のお話を聞いてグローバル社会に対応できるように、英語の勉強を頑張ろうと思いました。
- 齋藤学長の「勉強が面白いから」「今は、全ての教科を頑張る」という話で、娘も将来を見つめる上で、参考になったと話していました。もう1人、娘がいるので、再来年も開催して欲しいです。
- 医師や看護師、薬剤師として実際に職に就かれている方と、現役学生の両方の視点から、お話を聞くことができてとてもおもしろかったです。
- 校舎の中を少し見ることができて良かったです。次はオープンキャンパスも行ってみたいと思います。
- 今は役に立たないと思う勉強も、いつかどこかで役に立ったり、繋がったりするのだと思いました。だから苦手な教科も頑張ろうと思います。
- 今日の講話を聞いて、齋藤先生がウニの生殖に興味を持ったことをきっかけに産婦人科医になったように、人は本当に些細で意外なことからもモチベーションを得られるのだと気づきました。私も、今日の講話を通して、自分がどんなことに刺激を受け、やる気を持つのかを知りたいと思いました。
- 自分が知らない事や、医学科以外の話も聞く事ができて、とても面白かったです。
- 学長の話からも「なんでも聞いてみようタイム」でも貴重なお話を聞けたと思います。今まで知らなかったことがたくさん知れ、参加して良かったです。また校舎の雰囲気なども分かり、良かったです。



ひとりひとりの生徒から寄せられる様々な質問に、パネラーの先生や学生が丁寧にわかりやすく返答されました。



終了後、学長や先生に直接相談される親子も見られました。



質問された生徒には、富大オリジナルクリアファイルがプレゼントされました。





## 参加者アンケート

広報・運営・企画など、全体を通じて良かった点、改善すべきと思われる点

- 全体的に堅苦しくなく、親近感の感じられる座談会でした。
- お話も面白く、色々なことを知ることができ、参加して良かったです。
- 学修の流れ（帰宅して大学案内を拝見したら分かったのですが…実習の時期や修士課程、博士課程のことなど）が分からなかったため、お話ししてくださっている先生方、学生さんたちがどの課程のお話をされているのか、聞いている時に知れたかったなと思いました。
- 「医療とくすり、その他なんでも聞いてみよう」タイムでは、申し込みで入力した質問をまとめて回答してくださったので、分かりやすかったです。
- こちらが楽しく会に参加できるような雰囲気作りや内容に、とても満足でした。
- 保護者の意見ですが、将来に対する思いや、学校生活において頑張っている事など、生徒同士がお互いの現状を中学生の目線で悩みや成功体験などを共有できる時間があれば、一体感が生まれ、より高い志を持つことで、先生方に対する憧れの念がより一層強くなり今後の学校生活への励みに繋がったのかなと思いました。
- もっといろいろな学生の話を知りたいかったです。
- 駐車場を探すのに分かりにくく、駐車場のゲートの前に案内人を立てて欲しかったです。
- 質問の時間が長く取られていて面白かったです。
- 質問コーナーを必ず設けてくれたところはとても良かったと思います。しかし、時間が押ししまし休憩時間を取る時間があまりなかったところが改善すべきところだと思います。長時間お話を聞くだけだと、せっかく貴重なお話を頂いているのに集中して聞くことができなかったです。
- 私にとって、この講義はとても素晴らしいかったです。中学生の私のような生徒にも、もう少し分かりやすくなるようにスライドを工夫してもらえると、さらに良くなると思いますが、全体としてはとても完璧な講義だったと思います。
- 医師や学生が生徒の質問に答えていただけたのが良かったです。また学長さんの講話を聞くことも貴重な経験となりました。
- 様々な視点からの話がとても興味深く面白かったです。将来の進路を考える上で参考になりました。

申込時に寄せられた質問をとりまとめ、お答えさせていただきました



- 学費、富山県内への就職状況
- 専門書以外で好きな本、影響を受けた本、面白かった本
- 大学での仕事の内容・やりがい
- 富山大学の魅力は。働きやすい環境か。課題について
- 医療に携わるために必要なこと
- 医学・看護学・薬学を学ぶうえでの一番大事な心構えは
- 中学校でこれを頑張っておいて良かったと思うこと
- 高校や大学(医療系)進学のために、中学でどんなことを勉強しておいたら良いか
- 苦手科目の克服方法。数学や理科が苦手でも医学部に入れるか
- 高校、大学の学部を選んだ理由
- 大学でどのようなことを学んでいるか。勉強のやりがいは
- 大学生活で一番楽しいことは。つらいと思うことは
- 将来、どんな職業に就きたいか
- 勉強のやる気を出す方法・モチベーションを保つ方法



生徒さんからの質問に、先生や学生の皆さんが笑顔で応じ、和やかな雰囲気ですすめられました



## 終了後 | 記念撮影

座談会終了後、参加生徒と学長、パネラーが一緒にステージ上に集合し、参加記念の写真撮影を行いました。

また、参加記念として、オリジナルノベルティグッズがプレゼントされました。



(スケルトンポーチ) (布製トートバック)

